

中齋塾 東京フォーラム  
平成 28 年度 第九回講話

平成 28 年 10 月 8 日  
於 湯島聖堂

おはようございます。猪瀬理事長の挨拶で、こういう話をしようかなと思った話がころと変わってしまいました。今日は全然考えていなかった話から始めます。

猪瀬理事長曰く、湯島聖堂に来るのはたった 2 時間。日にちも決まっているのでどうぞ頑張ってお出てくださいということですが、この 2 時間を捻出することが大変な人は結構おられます。国内に住んでいる方であれば、この日この時間に来ることはそんなに難しくはない。しかし来ること自体が物理的に難しい方もいる。それから幸いなことに交通費が払える方が来られている。今、交通費を払えない方ってたくさんいます。政府は 200 万円以上を中流家庭と認定するような動きをしています。交通費を払えない方が凄く多い。ということでお金が厳しいという方も、なかなか来られない。猪瀬理事長に反問するわけではないけれども色々そういうことをクリアして来られたのだから一生懸命聞いていただくと有難いという話です。

それから先ほど猪瀬理事長が言われた戸板の話がありましたので、私の記憶と大野さんの記憶が違うといけないので、すり合わせをしながら話をしましょう。

大学に入って中国語を勉強するクラブに入りました。そのクラブの合宿がありまして、山道をとるとろ歩いていましたら、列の先の方で大きな声が聞こえた。私は後ろの方だったので前の方に行ってみたら崖があり、その崖を 2 年生が沢登りを始めて、途中で動けなくなり頭から落ちて途中で引っかかって止まった。その時いた人達は、声は出したが動けなかった。助けには行かないで悲鳴が上がっただけ。私は後でこういう言い方にしましたが、大変だと思った瞬間に心の留め金がカチッと外れた。心の留め金が外れると頭が高速回転を始めます。色々なことが湧き上がってきました。高速回転をした中で戸板の話になりますが、崖の途中で引っかかっているから下さなければいけない。幸い人が 50~60 人いましたから、男性は上に人梯子で上がって行き下ろす作業が必要である。本人を何かに寝かせて運ばなければいけない。その時、私は 1 年生で他の先輩方もおりましたが、その時は頭が高速回転していたので先輩後輩は関係ないです。それで、登ってくる途中の小さな祠に戸板があったなと頭の隅に浮かんだので、何人かにすぐ戸板を運んでくるように頼み、近くに固まっていた男性群には人梯子を作って崖を登って下してくるように頼みました。それから女性群には麓へ下りてください。お医者さんに連絡手配をしてくださいということ周りの人で目に付いた人に言いました。1 年坊主ですから先輩か同級生かは分からず素

早く指示したら、どういうわけか素直に動いてくれた。それで片隅にまだやっぱり男女の感覚があったのでしょうか。あの崖から落ちた先輩は相思相愛の付き合っている女性がいたはずだ。女性がぞろぞろ帰る中で恋人の女性だけ残ってもらって看病を頼みました。それで男性だけに着ている服を脱ぐよう頼み、崖から落ちて体の冷えた先輩に掛けてあげた。私も確か脱いだ記憶がある。

戸板の話は別に注意して戸板を見たわけではありません。まっすぐ前を向いて歩いていると右左が何となく記憶に残る物だと私は自分の体験で申し上げます。全力で頭の中が高速回転した時には、色々な物がどんどん出てきます。

今思い出したのですが、確か大野さんから「寒いから君はちゃんと服を着なさい」と言われた記憶があります。…ありましたね。あの時、大野さんは語文研の部長でした。それで終わってしばらく経ったら、「さっき指揮していた奴は1年坊主じゃないか。1年坊主の分際で先輩を差し置いてけしからん」と、文句が出てきたことを覚えています。

## ビジネスの大黒柱

家を建てる時に柱は何本ありますかという話をいたします。ビジネスをする際にも大事な柱は何本も要ります。

猪瀬理事長はかつて「うちは主要な柱が3本あるから大丈夫だ」と胸を張っていました。「大きな柱3本だけでは危ない。バタバタと潰れたら、どうするんですか？」と聞くと「大手だから潰れない大丈夫」と言う。そうしたら同時期に3本がなくなり、売上げの9割がなくなりました。残り1割で頑張っている。大変なことです。でも山田方谷先生の備中松山藩はもっと酷かった。粉飾決算をしていましたから、マイナスです。そこから考えれば、今、普通に商売している人は、優雅だと私は思います。だって血反吐を吐くような苦しみを味わってない方が多いと感じます。だいたいビジネスをやるとしたら、仕事がなくて苦しい。仕事を取るのが大変。仕事を取ったら回すだけのお金がない。お金がないと大変。

私が会社を起こした時、借金をして資本金100万円を作りました。社員はいません。それがスタートです。それで毎月借金をしていましたので色々な制度を探しました。当然、督促状が届きますし、お金を返せなくてヒイヒイっていました。金の苦しみは十分味あわせてもらったから、そういう場合の苦しみは分かります。

私のところから独立していった方が沢山います。過半数は飛び出した時の勢いそのまま会社を継続していますが、何人かは行方不明になっています。そういう中で2人自殺してしまいました。

仕事が取れるか取れないか、この関門で苦しい。最初の勢いで仕事は取れます。次に仕事を回す時のためお金がなくて苦しい。お金は必死になって掻き集めても借り方が悪いと次に繋がらない。

私は人様に頼まれてたまにお金を貸す時があります。これは母親から言われて実行をしていますけれども、お金を貸す時は返ってくると思うな、差し上げたつもりでやりなさいと。具体的なことを言いますと、親の家の前に新しい方が越されてきて、そこの奥さんと仲良くなったある日「お金を貸してください」と言われた。言われて「分かりました」と。母はお金を貸した時に「返さなくていいから、これでなんとか用立ててください。だけど二度目は無しですよ」ということで貸した事がありました。お金の貸し借りというものは、貸した人も借りる人も人間関係が壊れます。人間関係を壊すつもりでなければ貸し借りは止めたほうがよい。これはつくづく味わっています。その中で両者共に順調にいくことは、人間的にまあまあだという場合は何とか続いていく。だから貸し借りはよっぽど注意しなければいけないと思っています。

仕事が取れないで困る。次にお金のやり繰りが出来ないで困る。その次は人がいなくて困る。100人位の人数だったら家族経営で何となく顔も分かるし名前も分かり状況も分かる。500人超した時には、もう全員の顔も名前も分からない。それが1000人超えたら、まるっきり顔も名前も分からないので、部署ごとにと社員旅行をしました。この部署のこの人だったら100人位なら纏められる。この人は500人位なら纏められる。この人は1000人位なら纏められると人材を見つけて適材適所で置いていかないと会社はまわりません。

今は全体で3000人位ですけども、役員が全員30代40代になった。最近、代取会長を降りたことによって平均年齢がぐっと下がりました。バトンタッチをしてみて感じることは、年寄りが実権を持って上にいるということは老害だと、つくづく思います。実権を握らないで上に君臨するだけならいい。具体的なことを申しますと、お付き合いしている会社の中で90歳過ぎて現役の社長がおりました。大手飲料会社で伝説の人です。何度も会ってお話をしたら、本人の頭は頭脳明晰できちんとしている。でも残念ながら判断基準が古い。不易流行という言葉がありますが、変えてはいけないものと変えなければいけないものがある。残念ながら頭が固くなると変えるべき物が変わえられなくなる。

言い方を変えて、もう一つ。人間としてまともになるのに松永安左エ門曰く、大病を患って生きるか死ぬかの目に遭いなさい。失職して浪人になり食うや食わずの生活をしなさい。御用と捕まって牢獄に入りなさい。周りから見捨てられるような生活をしなければ人間って中々ものにならないというような話があります。

ついでに今日の紹介書籍、森信三『修身教授録』を回していただけますか。この中にもそういう類の話があります。後で申し上げます。

ということで商売をしようと思ったら、最初は家業です。家の生業から始まって家族だけでやっていけば、まあ家業はよい。これは公私混同が当たり前です。私は政府の税制、税金を取る人の考え方、これは間違っていると思っていますから。

今の日本の税制は良くない。税金を取る官僚の人達は一生懸命まじめにやればやるほど日本を滅ぼす方向に向かっている。家業も生業も企業も全部同じ税制でやろうなんて事自体おかしいと私は思っています。

人が一生懸命に何かやる。これは人間の性だし、一生懸命やるのは良いのですが、目的を間違えたり方法を間違えたりすると、とんでもないことになる。「学びで思はざれば則ち罔く 思いて学ばざれば則ち殆し」という言葉を、このビジネス絡みで後で紹介したいと思います。

最初は家族だけの家業から始まって、これが進んでいくと人を何人か雇ってビジネスをしていくと企業に変わっていきます。そうすると企業は人様の生活を見なければいけない。人様の生活を見るということは責任が出ます。責任が出るから、相応の法律を守り国民としてきちんとした仕事をして、世のため・人のため人様の役に立つような動きをしていかなければならない。

企業になった時にはお金の視点でみると段階がいくつかあります。幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・社会人、それから立派な社会人かな。

最初の幼稚園の段階は、制度融資を使ってお金を借りるというスタイル。そういう所でお金を借りて会社をスタートする。親戚や友達からお金を借りることは、これはまだ商売とは言わない。

義務教育あたりですと、政府系の融資機関からお金を借りる。今は日本政策金融公庫。これがまあ義務教育や高校でなんとかなってきた。

大学に入ったあたりだと、銀行とお付き合いするようになる。銀行の場合はプロパーで借りる。今の銀行はリスクを負わないで人に貸しています。これはおかしいとは思っています。

日本最初の銀行は第一国立銀行でした。「国立」といいますが民間の銀行です。渋澤栄一が作りしました。その時の科白が「銀行は社長を人物いかんを見てお金を貸すべきである。担保も取るけれども、基本はその社長の人物いかんによってビジネスが進むかが分かる。世間をみれば国が作った企業は殆どが倒産をしている。民間が血反吐を吐く思いで作った企業は成功を収めることが多い。良く世の中を見てご覧というのが渋澤栄一さんの科白です。

去年 7 月に金融庁長官に森さんという新しい人が就任したら金融庁の方針がまるっきり変わりました。今まで銀行に対しては、金利競争して銀行の資産増やせ。銀行が順調にいくのは良いことだと指導をしていました。今度は銀行の先にある取引先が良くなるかどうか、取引先にどういうアドバイスをするか、どういう提案をするか、どうやって指導していくかを、どれだけやったかで銀行の評価をします。今話したのは麻生さんが金融庁のベンチマークということで、ちょっと喋ったことが新聞の囲み記事に小さく出ていました。

企業といわれるようになったら、銀行が自分でリスクを負ってお金を貸そうということろまできたら、まあ一般社会人でしょう。一般社会人から良くやっているねと言われるようになるには、最近では社債を出したからといって良くやっているとは言われませんが、一時期は株式上場をすると良くやっているねと言われた。その前段階、予備軍が社債を発行するということになっていました。現在は上場していると良くやっていますねと言われるま

す。政府から一部の大企業などは消費税を取り返している。大企業は世のため・人のためという動きはしないで自分の利益追求が非常に多いと思っています。ただ影響力が大きい。ですから世界の中での競争をしましよというのですが、どうもおかしい。

話をちょっと飛躍させますと、今、世界全体で見てアメリカから出た超大企業かな、世の中を動かしていますが、どの会社でもどこの政府でも金を払っている特別な企業の便宜を図ろうようにしか会社も国も個人も動いていません。今回ノーベル賞受賞者の話で、予算がつかなくて基本的な基礎研究が出来なくて困っている。どこでも似たような話が出ます。真面目に一生懸命こつこつやっている人でも、その実験の原資はどこだ。例えば、新しい薬を発見して素晴らしい成果だと称えられた時に御本人は一生懸命やったかもしれないけれども、そこの大学のそこの講座に対する予算はどこどこ製薬会社から毎年どかんとくる。そこに対して便宜を図らなければいけない仕組みに全世界はなっている。

安倍さんが、あちらこちらに金ばらまいて歩っている。あれもふざけるなという事です。何故なら、援助をすることは相手に対しての侮辱です。その人が自主独立して頑張って家族や国のため、世のため人のため出来るような手助けをする。そういう援助であればこれは良い。先々そこの国家から利益を取ろう、お金を巻上げようということで援助をすることは相手に対する侮辱、侮蔑そういう外交だと私は思っています。

こういう物が指し示す物は何かと文明の感覚からいけば、東洋文明と西洋文明が交互に数千年の単位でバトンタッチをしています。2千年位のペースで新しい文明が生まれ、大きく発展し衰退していく。その次の文明に移行する時、200年から300年の転換期があります。今がその転換期の真ただ中です。この時期に新しい国家が誕生するのは当たり前だし、今まであった国家が消滅するのも当たり前のことです。そういう状況下だから、人類が発明をした通貨は、当時は良かったのですが今はガンです。通貨は人間性を摩耗させる。人間性を川底に引きずりこむような通貨という仕組みがもう破綻しています。ただ多少まだ残っているだけで、たぶん生きている間に通貨が終わったという実感が分かるだろうと思っています。通貨の形態は終わりということで考えると、今の企業の形態はたぶん根底から変わると思います。

天風先生の話へと変えますと、獣の肉を食べる時は悲鳴を上げる獣の肉を食べてはいけません。それから遠い国々から珍しい果物を船で持ってくる。バナナは青い物を持ってきて、それが熟れて美味しそうになる。何のことはない、どんどん腐ってきているということです。人間だってそうだけれども、実に腐るその寸前が美味しい。爛熟が美味しい。…頷いていますね。

ですから天風先生が土地で取れた物、旬の物を食べなさい。これが一番良いと言っています。安岡正篤先生も同じです。その場所で取れた旬の物を食べるのが一番美味しいから、とんでもない所から買ってきなさんな。金にあかせて、とんでもない国から時間・金をか

けて運んできてそれを食べる。どこかおかしいという事です。どこかおかしいということは、あちこちいっぱいあります。

今、企業はそういう物を集めて販売し自分の所だけ利益を得てグローバル企業になっていくことが良いとされています。でもその判断基準が崩れてきています。まだしがみついていますけれども、崩れたということに気がつくかどうか。

世界はもう変わってしまった。言い方を変えると神様が見放したのです。見放された人類は、もう一回チャンスをあげるから、もう一度頑張ってごらんという時期に立っていると私は思っています。グローバル企業はそういう方向に変わらない限りやっていけなくなる。物を生産し販売し利益を上げることはもうお終い。所有もお終いだと思っています。これからは地産地消があたりまえの時代になるでしょう。

## 恒例の質問

・胸に手を当てて考えて、良い日が続いたと思う方。

・ここ1ヶ月間、比較的、嘘はつかなかった。

・ここ1ヶ月間、有難うと言うこと、言われることが多かった。

年配になってくると、周りが何かやってくれるから有難うと言えますよ。有難うと昨日言われてなければ何かすればいい。有難うと言われたら一つ若くなったなと思えば良い。

・健康法を実践した方。

これは多いですね。ちなみに私、自転車に乗り続けて半年とちょっと経ちました。我ながら驚くぐらい太腿が太くなって強靱になってきました。3年前に片足で靴を履くことが出来なくなっていたのに気がついたが、この間普通に片足立ちして靴下を履いたら、家内が「靴下履けるじゃない」と。私も「いつの間に履けるようになったんだろうね」と。自転車に乗った効果です。健康法はとにかく実践しましょう。

・昨夜寝る時、明日以降のことを過去形でイメージして眠れたかどうか。

明日天気になーれは駄目です。明日良いことありますようにも駄目です。明日は、こういう事がやれたら良いなを思っていたら、出来てしまった凄かったなと思えたら成功です。

## 基本哲学 <知足>

来年の3月18日で中斎塾フォーラムは満10年になります。その間、言い続けてきたこ

とが「足るを知る」です。「足るを知る」ということは、どうも固くて難しい。最近「ほどほど」が良いねという言い方に変わりました。そういうことをもっと若い時に知っていたら、人と喧嘩をしないで済んでいたなと思います。

ある人に頼まれてある会に入会したことがありまして、入会したての時に会議がありました。10人位いたのかな。それで黙って20分ぐらい聞いていたら個々人の粗が見えてきた。その頃は30代半ばと若かったので、それで全員1人1人に対して問題点があるからこれは直せあれは直せと発言をしていったら、そういう人達はまあ怒りました。入会したてのひよっこが文句をつけたのですから。まだ恨みを持っている人がいる。その時に私は完膚なきまでに相手を叩きつけましたから、その分相手の人達のこの恨みは、そのうち晴らしてくれようと思ったのでしょうか。その時、自分の満足いくまで心いくまで相手を叩かないで程々にしておけば良かったなと今ごろ思います。

普通の人や銀行が、これは潰れるよというのは資金繰りで見ます。志がきちんとしていられるかどうか、世のため人のためになる仕事をしているかどうかという判断基準で見た場合に、潰れるか潰れないかは自動的に出てくると私は思っています。

自分で見て判断した物は間違いがないと思っても、人様の心を強く突き刺すことは棘を残すことになるから、程々にとというのが良いなと思います。

今日話した内容は少しアクの強い話し方にしてあります。普段はもっとおとなしく柔らかく言いますよね。

吉良評議員ーはい。

有難うございます。今日初めてお越しになった方が外国在住で、わざわざこの会に参加してくださっていますので、「朋 遠方より来たるあり」という言葉がありますが、そういう感覚で遠方から来たお客様に対して印象に残るためには、少しアクの強い話し方をしておかないといけないであろうという事です。

## 論語の視点

論語は現代に置き換えて解釈をすることです。本物の学者は現代に置き換えます。偽物の学者は置き換える力を持ちません。ということで本物は現代に置き換えて説明をしなければいけない。

学者は学問的なことは分かっても、商売をやったことがないから商売の感覚が分からない。文武両道ではないけれども、現実の世界、商売なら商売という場に身を置いて、それで論語をやれば、これは楽しいお話になるだろうと思います。

<憲問 第十四>

【二〇】子 衛の靈公の無道を言う。康子 曰く、夫れ是の如くならば、奚ぞ喪わざると。  
孔子曰く、仲叔圉 賓客を治め、祝鮀 宗廟を治め、王孫賈 軍旅を治む。其れ是の如し。  
奚ぞ其れ喪わんと。

「衛の靈公の無道を言う」無道は何が良いかな。孔子の映画を見た方はおられますか。その中で南子が出てきました。南子は美女です。孔子の話の中には女性の匂いはないけれども、あの映画は南子だけ特別に大きく解釈して取り上げています。

美女に狂っている魂ということで、道なきことばかりやっている。世継ぎの太子を追放しています。季康子がいうには先生が言われるように南子に溺れてまともな仕事をしていないのなら失脚しても当たり前ではないか。孔子が答えて言うには、まともに仕事をしていないけれども、周りに良い人物がいるから失脚しないでいる。

仲叔圉は外交問題の専門家で素晴らしい人物。こちらへんとすと安倍さんが頭に浮かびます。今の日本の話で、岸田さんは外務大臣が長すぎる。自分の率いている派閥からは外務大臣をそろそろ降りなければおかしい。閣内に取り込まれていたら内閣総理大臣になるチャンスがなくなるということで、安倍内閣で置き換えて考えてみると「賓客を治め」外交問題はこの人間に任せておけば良いというけれども？はいくつか出てくる。例えば歴史的に考えると、明智光秀が徳川家康を接待するように信長に言われて接待をした。その時、信長の癪に障って蹴り倒された。満座の中で辱められて、領地を取り上げられ自分で稼ぎに行けと追い出された。それを怨みに思っただ能寺の変を起こしたという話にもなりますが、信長にすれば「賓客を治め」賓客はこれでいけば徳川家康です。徳川家康をもてなすのに明智光秀が良いと思って接待させたところ、とんでもないことをやってしまった。最終的に自分が死ぬ羽目になったから人間関係はよっぽど氣をつけてやっていかないとはいけません。賓客を治めるような大臣が寝首もかくということで、安倍さん考えたみたいですね。祝鮀の祝は神主です。神主の鮀は祖先の祭祀を司る。これも順調にやっている。王孫賈は軍旅を治めながら軍隊をきちんと指揮している。ということで、周りに自分をきちんと補佐してくれる人がいる。したがって 42 年間その位を保つことが出来た。「其れ是の如し。奚ぞ其れ喪わんと」このような次第だから周りに良い人がたくさんいて、その人達が支えているから。これは失脚しないと孔子が言っている。

「子 衛の靈公の無道を言う」絡みのところで、これはもうちょっと仁徳があれば良かった。そうすれば違う動きになったでしょう。靈公は、そう酷い悪さまではしなかった。南子の情に溺れてはいたが、たかだか一人ではないか。たかだかという言い方は悪いですが、昔の話でいけば伊藤博文だとか色々いますね。靈公が南子に狂ったって奥さんに狂ったのだから別にどうってことないじゃないか。ただ正道をおろそかにしたのは良くないが、

仁徳があったから 42 年間もったという話です。

【二一】子曰く、其の之を言うこと作じざれば、則ち之を為すや難し。

「其の之を言うこと作じざれば、則ち之を為すや難し」けっこう多いですね。「其の之を言うこと」は大言壮語。大きなことを言う人間は、だいたい確証なく言います。大風呂敷を広げると後が困る。だいたい実行すると言っても決意せずに始めるから、なかなか実行できない。これは有言実行が良いけれども、なかなか難しい。10 やろうと思っているのに 100 ぐらい言う人が多い。それは大言壮語。10 やろうと思ったら、1 か多くても 2 ぐらい言っておけば何とかかなります。

これでいうと誰だろう。安倍さんが一番話しやすいので安倍さんにしています。TPP あれは嘘の連続。大言壮語じゃなくても後世に困るようなものを残す科白というのもあります。特に官僚が怖い。何度も言いますが源泉徴収と年金。源泉徴収は戦費調達のために給料から天引きするが戦争が終わったら止めますとあって、未だに源泉徴収を取っています。当時、年金を開始した昭和 22 年は、男性の平均寿命がやっと 50 歳を越した。その頃に 60 歳ぐらいまで生きた人に「年金をあげます」と言っていますから、お金を払う気さらさなく年金制度は出来ています。「皆さんから戴いた年金は、どんどん使って良い」というふうに当時の担当課長が言った記録はしっかり残っています。責任は取らされてない。今の東京都は、だいぶやり方が変わってきたから小池劇場が第二幕ということですか、そうすると吊るし上げが始まるでしょう。吊るし上げが始まるのは氣の毒だけど、大言壮語はしなくても何もしなかったことの罪でやられる。小池さんは透けて見えるから、都知事が終わったら、その次は総理大臣です。総理大臣のなりてに手を挙げているのが小池さん。それから今の防衛大臣は集中砲火くらって、慣れてないからしどろもでしたね。ああいう人だってもう少しタフになっていれば、いくらでも変えられると思いますけれどもね。

## 紹介書籍

『修身教授録』森信三著 致知出版

『修身教授録』の中に良い科白がいくつもあります。森信三は「人生二度なし」という言い方をしました。この人のやり方でこういう言葉は良いなと思っています。

## テーマ

<学びは人をつくる>

その人の真の値打ちは、自分の実力より二段三段ぐらい下がった位置に身を置いて行動すれば、それは本人にとって「行」になると森信三は言っています。自己を磨く修行になるから、自分の実力がこれぐらいと思ったら、それより意識的に三つぐらい下げて人とお付き合いしなさいということです。周りがはっと気がついて大した人だったと後で出ます。…死後です。

森信三で良いなと思うのは『修身教授録』は昭和15年に本が出ています。昭和12年に今でいう大阪教育大学の倫理哲学の講師でした。それが修身科の授業も担当することになったが、当時の教科書が気に入らず、こんな教科書で学生を教えられないと言って口述筆記をした。口述筆記をしたものが本になって残っています。中身は良い本です。

西晋一郎や西田幾多郎に教わっているから哲学はとても優秀だと思います。でも哲学って、何か難しいことをやっているように思うけれども、哲学ってそんなに難しい学問ではないと思います。経緯を調べればそうだけれども、「われ如何にいくべきや」「人生を如何に生きるか」とかいうことを一生懸命に考える学問と、かつて教わりました。今はそれで良いと思っています。

その中で良いなと思うものをいくつか御紹介すると、人と人との関係は何かのご縁ができたなら利害・特質・打算それで付き合いはいけない。利害・特質・打算で付き合い合ったら人間関係は終わる。だから利害・特質に関係ないところで、人と人との関係は深まる。これは大学生に一年間教えた時の科白です。それから最善の人生態度は、人生を生きるうえにおいて一生懸命考え自分の人生を振り返って、我が身に降りかかってくる事柄は全部、天が私に試練で与えてくれたものだと思って受け止めなさい。そういうふうに君たちが生きていけば一生間違わないで済むよと生徒に教えた。それで生徒に教える側と教わる側の気持ちが一致したら素晴らしい人間関係ができ素晴らしい人物ができていく、だから一年間、気持ちがぴったり一致するようにお互い努力しましょうみたいな話をしています。

学びは人を作るということは、教えてくれる人も選ばなければいけない。教わる人が教える人を選ぶ。それから教える人も教わる人を選ぶ必要がある。森信三さんの教えはお互いさまとは言わないけれど、そのように理解いたしました。

## 時事評論

新聞を見てきているので幾つか申し上げなくてはと思っています。先程グローバル企業の話をしてしまいましたが、10月7日（金）読売新聞の夕刊。厚生労働省は過労死と防止対策推進法に基づいて過労死と防止対策白書をまとめた。将来的に過労死ゼロを目指すとしている。

残業 80 時間を超える企業は 2 割超えているということですが、今、ブラック企業は多いです。企業はどんどん悪くなってきている。どうして悪くなるかというところを、企業のトップが考えなければいけない。大体ところてん役人が多いから苦しいですね。

セブン&アイ・ホールディングスについても利益率が高くて首都圏に注力なんて書いてある。この間、鈴木敏文前会長が「三越なぜだ事件」ではないけれど、それに類するようなことをしましたから、お話として、これは題材で面白いと思います。本人御存命ですから、まだちょっと苦しいけれども、大企業はちょっと調べれば似た様なことがいっぱい出てきます。

今から司会者が終了の鐘を鳴らしますが、心が乱れているか気持ちが澄んでいるか、お聞きください。

…ちょっと雑念が入っているね。新聞はまだいくつかあるけれど、時間がきましたから御自分で見てください。新聞は、事実は伝えません。ヒントを伝えます。

終了の鐘が鳴りましたので以上で終了に致しましょう。有難うございます。